

令和2年1月28日～30日

政友会(浜崎昭臣・平山泰司・船辺 修・柴田 誠)・公明党(赤木武男)

【沖縄県石垣市】 石垣市の観光振興について

視察報告

石垣市では、平成22年8月に観光基本計画を策定し、平均宿泊数を3泊以上、リピーターを毎年6割以上、空港国際線施設の乗降客数8万人などの目標を掲げ、「住んでよし・訪れてよし」の観光による豊かなまちづくりを実践されていたほか、地元高校生による市の魅力発信も行われていました。

また、石垣島マラソン大会のスタッフ確保のため、運営体制を見直し、これまでの10部門を今大会から8部門に減らしたことで、高校生や市民のボランティアが増加したとのことでした。

視察を終えて

本市も空港などを利用した観光客誘致だけでなく、高校生などの目線での市の魅力発信も必要と感じました。



【沖縄県豊見城市】 道の駅「豊崎」について

視察報告

道の駅「豊崎」は沖縄県内で6番目の道の駅としてオープンし、豊見城市観光協会が市から委託を受け管理運営をされていました。道の駅としての「休憩・情報発信・地域連携」の3つの機能に加え、隣接する「レンタカーステーション」(1日約2,000台の利用)と一体となり交通拠点としての機能を果たす全国初の道の駅でありました。

館内には大型ディスプレイでフライト、渋滞、雨雲レーダーなどの情報を発信され、隣接の食彩館はJA女性部のスタッフが中心となり、地元産にこだわった商品を販売されていました。

また、レンタカー事業者と協力してタイヤ安全プロジェクト、消防救急フェスタなど、子どもも参加できるイベントも行われていました。

視察を終えて

本市でも道の駅の機能充実、地域の方々と一体となったイベント企画が必要と感じました。



令和2年1月28日～30日

天政会(池田裕之・脇島義純・中村三千人・勝木幸生・鶴戸継啓)

【香川県高松市】 高松丸亀町商店街の取り組みについて

視察報告

本商店街では、国の「廃業支援制度」を活用し、民間が主体となった地域経営が行われており、人が集まる商店街再開発を展開することで、地権者の新たな収入、税収は自治体の収入とする仕組みを形成されていました。また、そこに暮らす住民に対しても安心かつ快適に生活できるように、ライフインフラ再整備を行うことにより、商店街再開発につながっていました。

視察を終えて

本市とは人口密度が異なりますが、一つの成功再編のあり方を踏まえ、本市商店街に提言していきます。

【香川県三豊市】 父母ヶ浜を活用した観光振興について

視察報告

父母ヶ浜では、フォトコンテストに出展された海に映った自分の姿が鏡に映ったように見える1枚の写真がSNSで発信されたことがきっかけで、人気が高まり、「瀬戸内の天空の鏡」というネームで観光名所となり、人気が一気に広がったとのことでした。

視察を終えて

本市においても、官民一体で地域の良さを再発見・利用することが、地域づくりの一つの手法になることを提言していきます。

【愛媛県松山市】 消防団の充実強化、みんなで歩いて暮らせるまちづくり

視察報告

松山市では、消防団のなり手不足対策として、平成17年度の機能別団員である郵政消防団員採用をかきりに、大学生や事業所、レディース消防団員採用など、団体の消防組織を編成され、迅速な災害情報の収集のほか、就業時間中限定の消防団員、日中限定の女性消防団員など消防団の充実強化に努められていました。

視察を終えて

本市においても、消防組織を守るためには、各種団体のご協力もいただきながら、機能別団員の増加につなげ、それぞれの役目をもって地域を守っていかねばならない時代にきていると感じました。



赤木 民法の一部改正に伴い、4月1日から入居の際に連帯保証人が保証する極度額が設定される。身寄りの少ない高齢者など、連帯保証人の確保が難しくなり、低廉な市営住宅への入居が厳しくなる。県や熊本市は連帯保証人を廃止するが、本市も廃止すべきでは。

建設部長 本市は98%以上の収納率を維持しているが保証人確保は、家賃債務の保証以外に滞納への抑止力につながっている。

赤木 住生活のセーフティネットとしての市営住宅の役割と極度額を設定される月数を伺う。

建設部長 居住を必要とする高齢者や生活困窮者、障がい者など、住宅確保に配慮する役割を担っている。極度額の設定金額は「家賃の18カ月分」と考えている。(家賃が2万円の場合、36万円)

赤木 病気や体の衰えにより、ごみ出しが困難な高齢者が増えていく。高市総務大臣は、閣議後の会



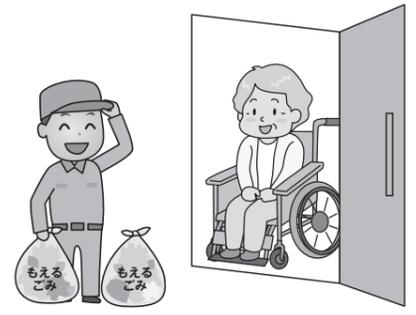
赤木 武男 議員

●天草市営住宅条例に関連して
●高齢者や障がい者のごみ出し支援



見で「自治体を取り組むごみ出し支援に、5割の経費を措置する。全国的に積極的に取り組んでほしい」と述べたが、本市でごみ出し支援を拡充する考えはないのか。

市長 市社協が実施主体の「ほっと安心サポート事業」もあるが、新年度から市内各地の状況に応じた「訪問介護員専用の燃やせるごみ回収拠点」を設置し、高齢者に優しい環境づくりを進める。



議員力の向上を目ざして!

SDGsへの理解を深める



▲県下の市議会議員が参加

1月20日、熊本県市議会議長会が主催する第27回熊本県市議会議員研修会が熊本城ホールで開催され、本市議会からも22人の議員が参加しました。

今回は、東京大学教養学部客員准教授の松本真由美氏を講師に招き、「SDGsが目ざす世界とは?地域、そして私たちができることは?」と題して講演されました。

講演では、SDGsの説明、自治体や企業での取り組み事例の紹介のほか、地域における持続可能な開発目標について話がありました。

SDGsへの理解を深める貴重な研修となりました。